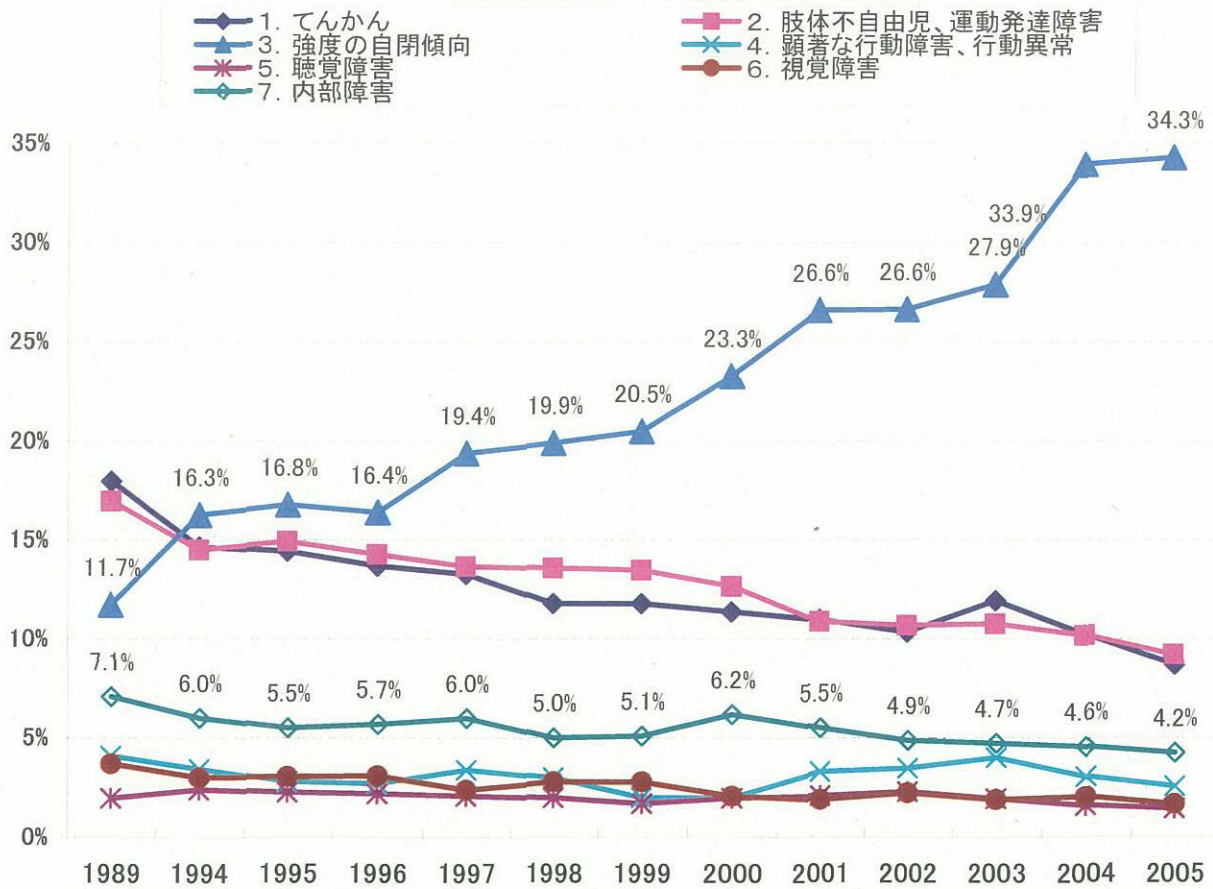


2. 乳幼児期は子ども自身の病状・健康状態が不安定であるとか家族の都合などから突発的な欠席事態が派生しやすく安定的なサービス利用体制が確保しにくい時期である。

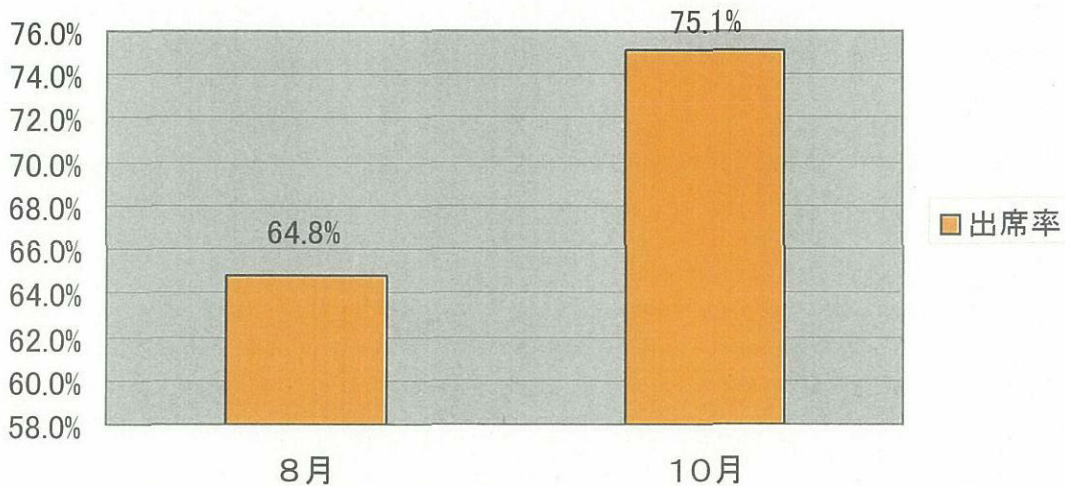
体力が整わず根治手術前であったり、障害が顕在化や安定化する前であったり、薬物治療への適合化前であったり、さらには親や兄弟姉妹の諸事情などでの療育への出席がなかなか安定しない。

→地域で信頼される水準での発達支援サービスを安定的に提供出来る人的・財政的な体制維持の確保を。

重複障害・合併障害の状況



出席率（2004年度協会緊急実態調査）

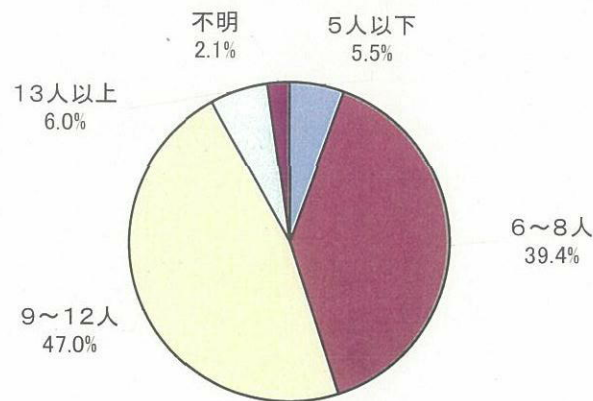


3. 乳幼児期は人間が社会的な存在へと発達するプロセスの初期段階にある。

母子だけの人間関係や生活リズム段階から、より大きくて複雑なサイズ・ルール集団への適応に向けたソーシャルスキルの獲得段階である。子どもにとっても家族にとっても小集団からのスモールステップでの将来に向けた地域生活者としての自立力を育む生活の場が発達支援サービスの基本となる。

→親の社会化と子どもの社会化・地域化に向けてのサイズ・レベル・テンポの異なる多様な集団活動を基本的な生活の場として位置づけ、母子の状況に合わせた日常生活の場での発達支援サービスを効果的に提供できる体制を。

1クラスの人気数 (2005年度)



担任職員数 (2005年度)

